

# 新たな国立公文書館及び憲政記念館に係る基本設計について

## 建物概要

場所：国会前庭（憲政記念館敷地）  
建物：地上 3 階地下 4 階  
総建物面積：約 42,460㎡ ＜内訳は右のとおり＞  
（憲政記念館・駐車場を含む面積）  
工事費：約 488.9 億円（什器等諸費用除く）

## 今後の進め方（予定）

|               |         |
|---------------|---------|
| ～令和3(2021)年3月 | 実施設計    |
| 令和3(2021)年度～  | 建設工事    |
| 令和8(2026)年度   | 施設完成・開館 |

| 機能名              | 国立公文書館             |                      | 憲政記念館   |
|------------------|--------------------|----------------------|---------|
| 展示・学習            | 約2,360㎡            | (420㎡)               | 約1,280㎡ |
| 調査研究支援           | 約1,200㎡            | (340㎡)               | 約380㎡   |
| 講堂・会議室           |                    |                      | 約1,040㎡ |
| 保存<br>＜一般書庫書架延長＞ | 約9,750㎡<br>＜約100km | (14,940㎡)<br>(72km)＞ | 約800㎡   |
| 修復               | 約420㎡              | (140㎡)               |         |
| デジタルアーカイブ        | 約380㎡              | (－)                  |         |
| 交流（エントランス等）      | 約1,000㎡            |                      | 約550㎡   |
| 執務・管理            | 約6,770㎡            |                      | 約780㎡   |
| その他（廊下等）         |                    | 約9,110㎡              |         |
| 駐車場              |                    | 約6,640㎡              |         |
| 合 計              | 約42,460㎡           |                      |         |

※（）内は北の丸の現状。ただし、保存はつくばも含む。機能毎の面積は現時点での想定で、実施設計段階で変更となる可能性がある。

## 外観

- 国立公文書館のデザインは、その中枢機能である**歴史公文書等の保存を表現**するため、**時を貫く記録の「積み重ね」のイメージを水平ラインで強調**するとともに、所蔵資料を**守り保存する使命を重厚感と陰影ある意匠**で表現する。
- また、国の三権が集中し、国民が利用しやすい国会前庭への立地であることを踏まえ、隣接する**国会議事堂との調和**を図るため、国立公文書館には**同系色の石材**（国会議事堂：桜御影）を使用する。
- 憲政記念館のデザインは、**両館の独自性を表現**するため、現建物の特徴を継承し、**近代建築材料（金属、ガラス等）**を基調とする。



国立公文書館北西側外観



国立公文書館（左）及び憲政記念館西側外観

※**当デザインには**、国内で最も権威ある建築の賞とされる**「日本建築学会賞(作品)」受賞者**である大谷弘明氏、山梨知彦氏（いずれも(株)日建設計 設計部門プリンシパル）がレビューとして**参画**。



## ゾーニング・動線計画

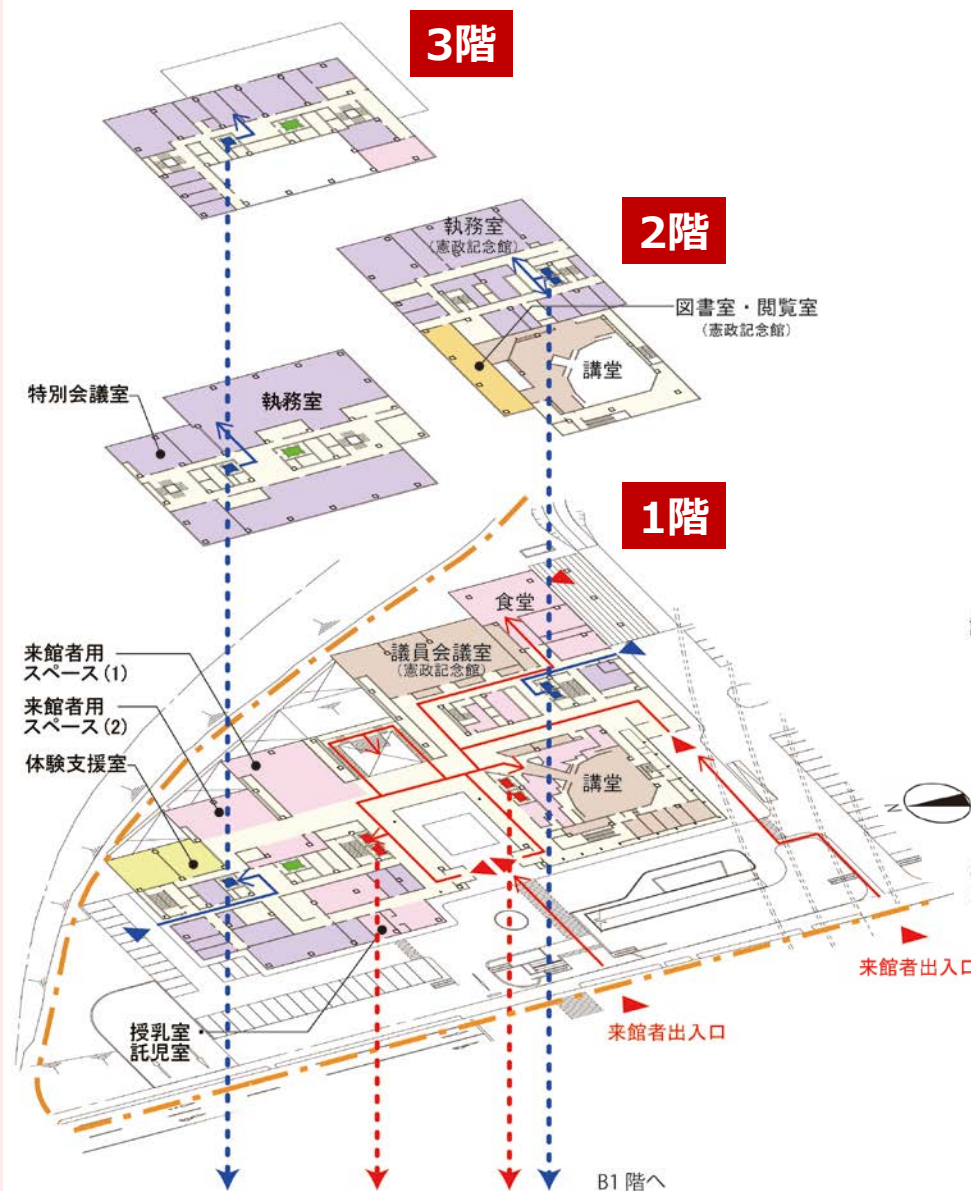
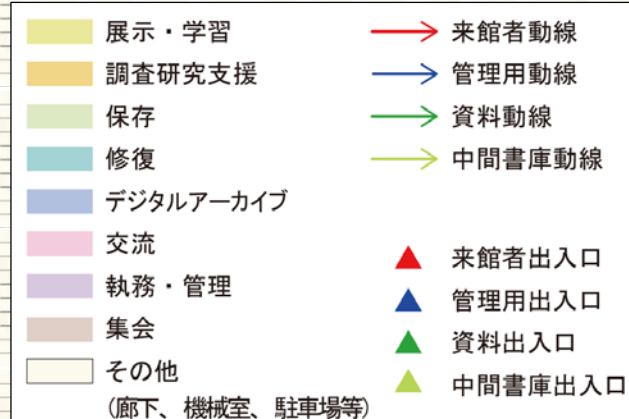
- 洪水や津波による**浸水の想定されない高台**に位置。また、外部環境や地震の影響を受けにくい、**地下階に保存機能を配置**。
- **機能毎に同一階に配置**（例：展示＜地下1階＞、閲覧＜地下2階＞）するほか、来館者動線、管理用動線、資料動線の**各動線を明確に分離**。
- **多様な来館者の利便性に配慮**し、来館者専用E V（30人乗各2台）を設置するとともに、**授乳室や託児室、食堂等は1階に配置**。



木材を取り入れたエントランスホールから開放的な大階段を望む



レセプション等も開催できる、皇居を望む1階来館者用スペース



※現時点における検討案であり、今後の詳細検討や行政との協議結果を踏まえ、変更となる場合がある。

